

備陽史探訪

第237号

発行
備陽史探訪の会
福山市多治米町5-19-7
TEL.070-1074-9617

備後を中心とした
地域の歴史を研究し、
愛郷の精神を涵養する。

(会則第1章第2条より)

備陽史探訪の会の目的

志川滝山合戦考

城主宮入道光音とは

会長 田口義之

はじめに

天文二十二年(1552)七月二十三日に行われた志川滝山合戦は、史料に比較的恵まれた合戦である。合戦の当事者であった毛利氏の軍忠状(1)をはじめ、毛利氏に従った備後安芸の国衆の軍忠状(2)、毛利氏や大内氏の発した感状(3)など、戦国期の合戦にしては同時代史料の残存度合いは高い。また、これらの史料を元にしたと考えられる軍記物語も、『陰徳記』及び『陰徳太平記』に収録され、同書の流布と共に広く中国地方に広まった。

しかし、志川滝山城に立て籠もったとされる宮氏に関しては資料が少なく不明確である。ただし、現在では志川滝山城に籠城し毛利氏の攻撃を受けたのは「宮入道光音」なる人物であったと定説化され、毛利氏

関係の概説書(4)、『福山市史』などの地方史に半ば断定的に記述され、広く世間に受け入れられている(5)。然らば、宮入道光音は如何なる性格の人物であったのか、私見を披露したい。

志川滝山合戦とは

まず、志川滝山合戦に関する一次史料で、同合戦に至る経過を検証してみたい。同合戦の初動を示す史料は、推定天文二十二年二月十九日付の陶晴賢書状(6)である。この書状



四川ダムの堰堤から見た志川滝山城

で晴賢は、備後国衆湯浅元宗に対して、尼子勢が上口(備中方面)に進出していることを述べ、「彼の一味中」が「備後外内郡境目に至り」挙兵する動きがあり、もし実際に挙兵したら元就の指示に従って動いて欲しいと申し送った。時期的に見て、この「彼の一味中」が志川滝山城に立て籠もった勢力と考えて間違いな。備後外内郡境目とは、内郡の神石郡と、外郡(備後南部)の安那・品治両郡の境界と考えられ、志川滝山城はこの「境目」からわずかに外郡(安那郡)に入ったところに位置する。

実際にこの尼子氏に味方した勢力が志川滝山城に拠って挙兵したのは同年六月のことで、大内氏は味方の国衆に対して、「備後境目動」に對して、江良丹後守を上使として派遣したので、元就の指示に従って対処して欲しいと申し送った(7)。実際に合戦が行われたのは、同年七月二十三日のことで、攻城側は多数の死傷者を出しながらも城を陥落させ

目次

志川滝山合戦考 — 城主宮入道光音とは	1
調査報告	1
中世石造物の調査報告…(篠原芳秀)	4
坂本敏夫氏を偲ぶ…(会長 田口義之)	5
フンシヨットレポート	5
研究レポート	5
備後南部における	5
古墳分布の変遷と茨城川	6
近世福山の歴史講座53回	6
阿部藩(第四回)	6
初代正邦の時代—その四—	6
研究レポート	10
大谷九ノ平城跡について	10
書籍紹介	14
『はんごと日本人』…(岡田宏一郎)	16
田口義之の備後の古墳30選(2)	16
事務局だより	20
二子塚古墳	19

現在の会員数 225名



会員数は8月上旬現在の数字です。その後の増減があるかもしれません。(いっちゃん)